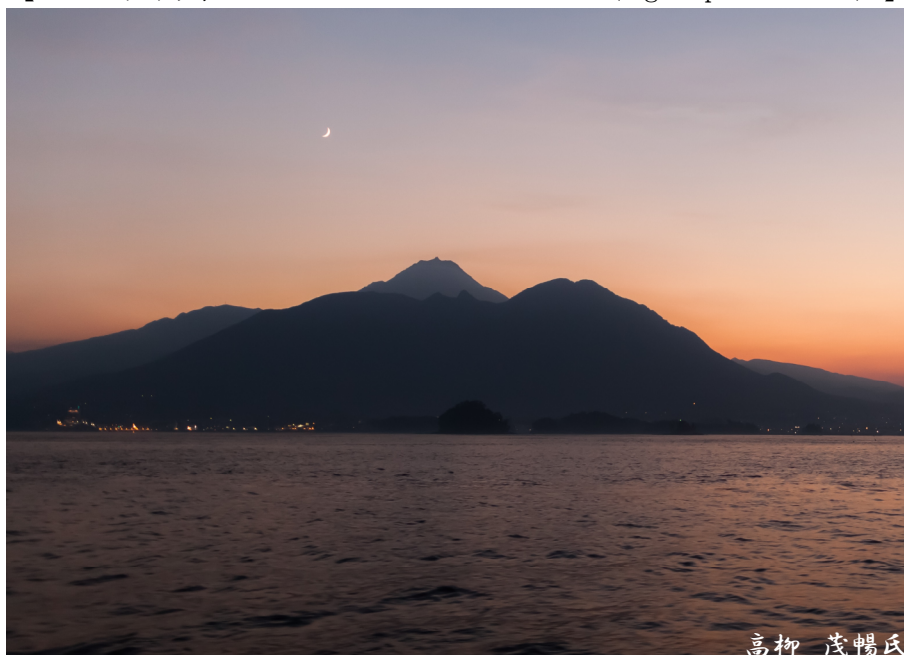


【13 三池島原ライン Miike-Shimabara Line (high-speed vessel)】



島原港沖の船上から

三池島原ライン（高速船）では、島原港～三池港の航路上のあらゆる区間で“[東面～北東面の雲仙岳](#)”が眺望できます。船体が低く海面から近いため、島原港付近から見上げる雲仙岳は迫力があり、また、S字状の航路上では雲仙岳の方角が刻々と変化し、見え方が変わっていくことが魅力で、双峰形の眉山（天狗山と七面山から成る）の谷間から平成新山が顔を出すように見えるショット（↑）は、本航路ならではの風景です。

かつての有明海の漁師たちは、雲仙岳の見え方（山々の組み合わせ）を手掛かりに漁船の位置を把握していたと言われますが、それを追体験できる航路です。また、航路から阿蘇山も眺望できることがあり、阿蘇山と雲仙岳の間の歴史的な大三角形（※阿蘇地域のページ参照）を視覚的にイメージすることが可能です。

平成27年に世界文化遺産（明治日本の産業革命遺産）に登録された三池炭鉱では、機械化が進むまで、雲仙岳で放牧・育成された島原馬が坑道内の石炭運搬に活躍していました。全国一の三池炭鉱の石炭産出を、実は雲仙岳が裏で支えていた、とも言えるわけです。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、三池島原ラインで旅してみませんか？

●島原三池ラインの観光情報はこちら↓
やまさ海運株式会社 <http://www.miike-shimabara-line.net/>



三池港から



高速船